

< テーマ設定理由 >

幼保一体型園の為、日常から幼稚園の4.5歳児が歌う姿や楽器や教材に触れる姿を目にしたり、行事見学をしたりすることがある。その中で、幼稚園ごっこや自分たちで作った製作物を使って友達とのやり取りや見立て遊びを楽しむ姿が見られ始めた。生活の中で経験したことや感じたことを模倣したり、イメージを膨らませたりしながら、様々な表現方法があることを知り、表現することへの興味関心を深めていくため。

< 事例:1 >

- 活動内容 『 表現 ~ダンス・音楽~ 』
- ねらい 音楽に合わせて歌ったり、体を動かしたりすることを楽しむ
- 用意した環境 外部講師、遊戯室



< 子どもたちの様子 >

知っている音楽だったので自然に体が動いたり、歌う声が大きくなったりしていた。また、自分たちが歌ったり、リズム遊びをしたりして楽しんだ後は、年下の友達や保護者に見てもらいたいという気持ちが育った。発表会や運動会などで実際に見てもらいとても満足感を味わうことができた。



< 保育者の振り返りと気づき(観察者の気づき) >

- ・ダンスでは覚えた動きを最後まで踊ることができた嬉しさや楽しさを感じていた
- ・子どもたち同士で歌ったりダンスをしたりして遊びの中に取り入れる姿が見られた
- ・歌やダンスを繰り返し楽しんできたので、他のクラスや保護者に見てもらおうと嬉しさを感じ、自信につながっていたと感じた



## <事例:2>

- 活動内容 『表現 ～造形～』
- ねらい 柔らかいお花紙の感触を楽しみ、水と合わせることで紙が変化する様子に気付く  
お花紙をちぎって飛ばすことの楽しさを友達と共感する
- 用意した環境 広い空間、机上遊びでは人数に配慮した空間  
お花紙、プラカップ、霧吹き、水、画用紙

### <子どもたちの様子>

お花紙に興味をもち、紙を上へ投げひらひら落ちる様子を見て驚いていた。広い場所に移り、ちぎったお花紙を中央に集めてうちわで扇いで飛ばすと、お花紙が高く舞い上がった瞬間に「きれい！」と歓声を挙げていた。また、ちぎったお花紙を透明カップに入れると「きれい。ジュースみたい」と喜んでいた。

画用紙の上にちぎった紙を置き、霧吹きで水をかけて手で押さえると模様になった。また、お花紙を握って水をかけると球状の物ができ上がった。この球を画用紙にできた模様に置いたり、お団子作りのようにたくさん作って画用紙の隅に並べたりしていた。



### <保育者の振り返りと気づき(観察者の気づき)>

- ・紙が舞い上がった時、ジュースに見立てた時、画用紙の上に作品ができた時等「きれい」という言葉が出ていた。実際に触れて感じることで、自分の気持ちを言葉にしていた。
- ・うちわで扇いだ時の音、お花紙の動きと色、どれもを友達と共感していた
- ・保育者が「なんでお花紙が上に飛んだのかな？」と問いかけると、「風を作ったから！」と答える子がいた。自然の風で物が飛ぶのとは違い、子どもたち自身がうちわで風を作り出すことの面白さを感じたようだった
- ・初めて霧吹きを使ったお花紙の作品は色と形が面白く、子どもたちには新鮮で「〇〇みたい」と表現していた。少し戸惑った子は、しばらく友達作品を見てから、真似してその子らしい作品を作り上げていた
- ・子どもが「なんだろう」「きれい」「不思議」と思える環境作りと経験をすることで、触れて、感じて、表現することにつながるのではないかと。
- ・「何でも良いよ。自由にやっごらん」は、製作に自信のない子にとっては難しい言葉かけである。真似から始まり、真似することで次につながっていくため、言葉かけを工夫していく

## <事例:3>

- 活動内容 『表現 ～造形～』
- ねらい 点、線、ぐるぐる丸等自分の体を動かして感じる  
体を動かすことで次は大きな紙にクレヨンで友達と一緒に点、線、ぐるぐる丸を表現する
- 用意した環境 体を動かせる広い場所にビニールテープや段ボールで点、線、丸を貼る  
布ボール、クレヨン、スポンジ、絵の具、障子紙

### <子どもたちの様子>

クレヨンが紙の上で散歩するイメージで体を動かす(布製のふわふわボールを受け取る、頭に乗せ直線歩く、丸の紙を両足跳ぶ、渦巻き周り歩き、ボールを友達に投げる)ことを楽しむ様子が見られた。

その後、3つのグループに分かれて大きな紙の前でクレヨンを手にしてすると夢中で描き出していた。「ビューン」「テクテク」等動きを言葉にして描く子、少し考えながら小さな丸を沢山描いている子、体、腕を大きくいっぱい動かして描く子と様々な表現が見られた。



### <保育者の振り返りと気づき(観察者の気づき)>

- ・大きな紙にクレヨンで遊ぶ導入として体を動かした。紙の前に座ると、自分で体現したことを紙に描き表すように、一人ひとりのペースで腕や体を伸ばして描き始め、形の違う渦巻きの丸や閉じた丸、曲線で虹、丸で顔を表現するなど自由に伸び伸びと描き、何を描いたのか保育者や友達に言葉で伝え、共有したり一緒に楽しんだりしたりする意欲を感じた
- ・活動後に絵を見るとことで、描いていた時は気づかなかった子どもの表現や友達から刺激を受けて描いた過程などを読み取ることができ、活動中とは違った視点で作品を楽しめると感じられた
- ・後日、自由遊びの時間にクレヨン画を楽しむ姿が増えている。じっくり好きなものを描いたり、友達と描いたものを共有したりなど、子どもたちなりに表現する楽しさを味わっていると感じた